

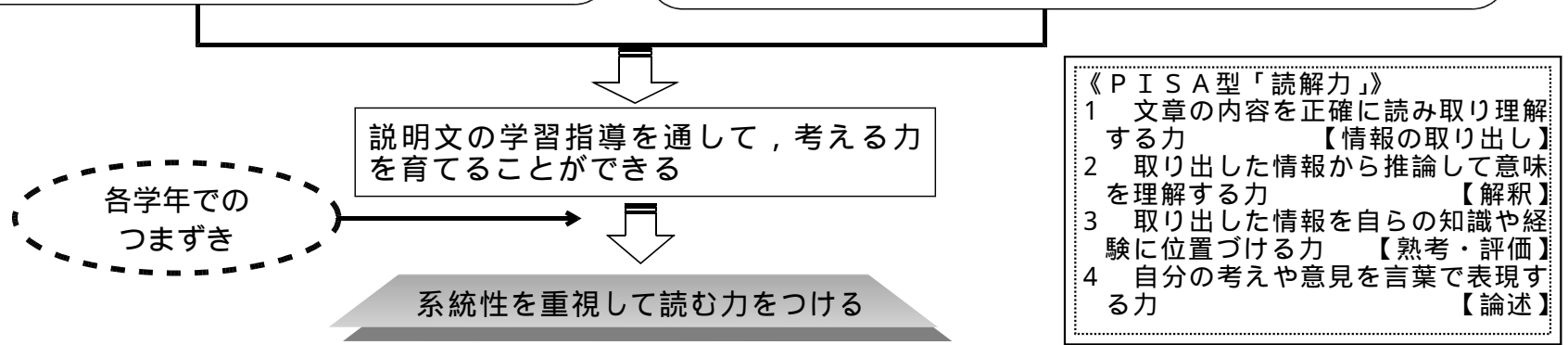
系統性を重視した読む力の見極めとその指導 - つまずき対応からPISA型まで -
 「生活の中で生かせる要約の仕方を学ぼう - イースター島にはなぜ森林がないのか - 」(6年)

1 「系統性」の重要性

小豆支部研究部

「考える力とは、分析力、論理的構築力などを含む、論理的思考力である。」(文化審議会答申)

説明文教材の読みは、論理的思考力を育てることを主な目標とした理解の学習である。(「国語科授業用語の手引き」参照)

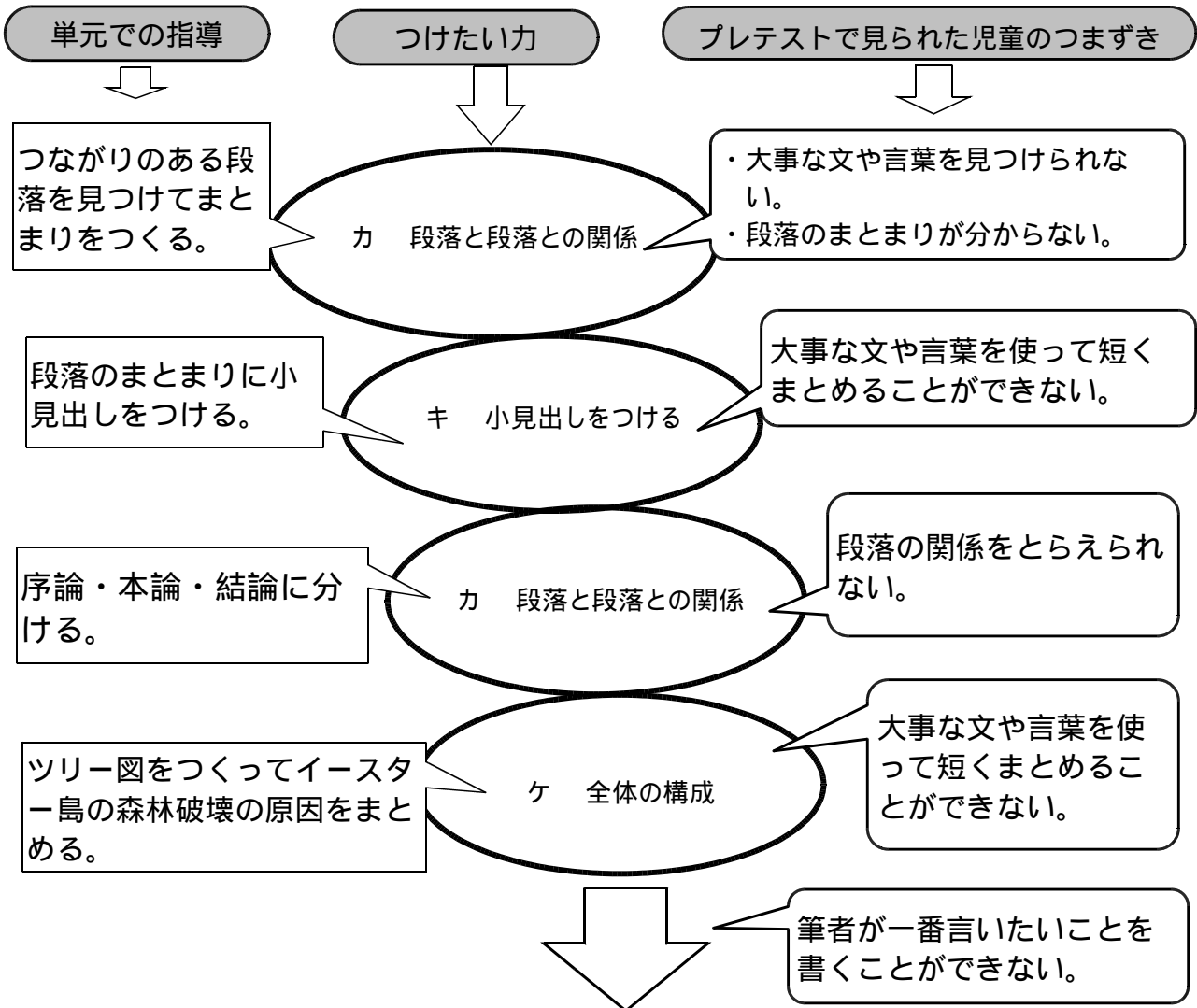


2 「つきたい力」の系統(教科書の『てびき』を手がかりに)

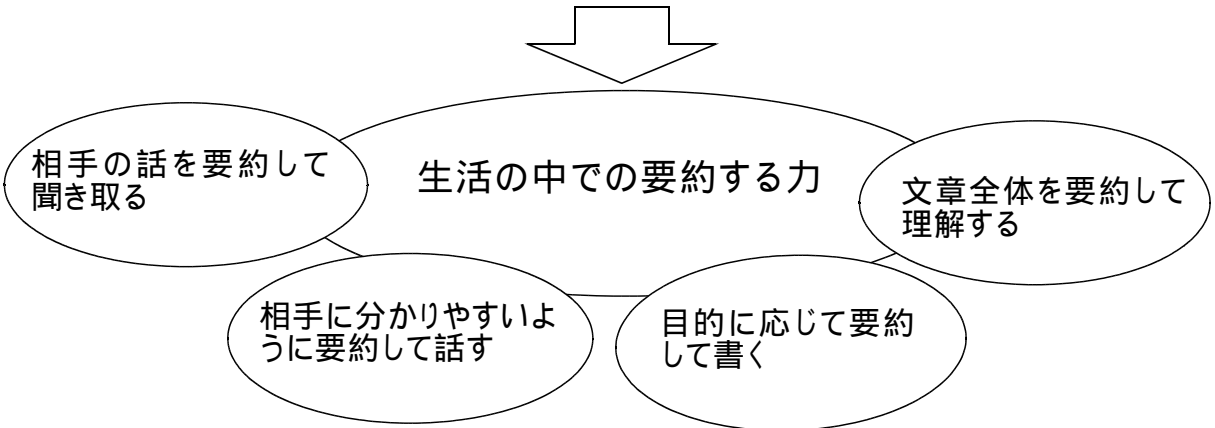
学習指導要領の「読む」の目標	学年	教材名	つきたい力											「読み」のねらいや教材文の特徴等	PISA型「読解力」			
			文		段落			まとめ		文章								
			ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ			シ		
よつと読む態度を育てる	1下	いろいろなふね															・それぞれの船について「名前」「役目」「工夫」の順にくり返されており、述べ方を真似しやすい。	情報の取り出し
	2上	たんぼぼ															・時間の経過に従い、や説明の順序に気をつけて読むことをねらう。 ・「～すると」「このように」に着目する。	
	2下	ビーバーの大工事															・巣づくりの過程に従い、説明の順序に気をつけて読むことをねらう。 ・「そして」「そうして」「こうして」に着目する。	
	2下	せかいのかくれんぼ															・遊び方の説明の順序に気をつけて読むことをねらう。 ・順序を表す言葉「まず」「はじめに」「それから」「～したら」などに着目する。	
育にの目的を考慮し、幅広中心をとりよつと読める態度を育つ	3上	自然のかくし絵															・短くまとめるには、大事な言葉を見つけてつなぐ方法や、中心文を見つける方法があることを知り、読み取り方の基本を学ぶことができる。大事な言葉は、「繰り返し出てくる言葉」「題名とつながりがある言葉」という視点で見つける。	解釈 熟考・評価
	3下	つなひきのお祭り															・本論は祭りの例が並列的に挙げられているので、小見出しをつけやすい。それぞれの祭りの説明の中に、由来や準備の様子、当日の様子が書かれているので、説明に必要な事柄をつかみやすい。	
	3下	もうどう犬の訓練															・本論は上位・下位でまとめられる(「行動の訓練」を上位とすると、「人間の言うことに従う訓練」「人を安全に導く訓練」「きけんな命令には従わない訓練」が下位)なので、総括的な述べ方を学習することができる。	
	4上	ヤドカリとインゲンチャク															・「問い」と「答え」方式で書かれているので、まとめを見つけやすい。	
	4下	ウミガメのはまを守る															・本論を読むときに、時間と主語に着目するとまとめを見つけやすい文章になっている。	
	4下	くらしの中の和と洋															・「部屋の中での過ごし方」「部屋の使い方」についての和と洋の良さという観点で読むと、文章の上位・下位構成を見つけやすい。ツリー図に向けた指導ができる。	
をが目的に深めたりしよつと読める態度を育つ	5上	動物の体															・文章の仕組みを考え、要旨をとらえることをねらう。例に挙げられている事柄を上位方向にまとめたり、下位方向に砕いたりすることで、複雑な文章構成(ツリー図)をつかむことができる。 ・大事な言葉を見つける手がかりとして、「要旨と関係する言葉」ということを押さえる。	論述
	5下	森林のおくりもの															・既習事項を生かして要旨をとらえ、題と関連させて自分で言い換えることができるようにすることをねらう。	
	5下	イスタ外食品とわたしたちの生活															・根拠が明確な文章構成なので、自分の考えを組み立てるときに参考にしやすい。	
	6上	イースター島にはなぜ森林がないのか															・複雑に思える文章を3つのまとめ(序論・本論・結論)でとらえて要約することを通して要旨をつかみ、自分の考えをもつことをねらう。 ・事実と考えの述べ方の違いを知ること、情報の見方を学ぶことができる。	
	6下	百年前の未来予測															・自分の考えを述べるときには根拠を示すことが大切であることを学ぶ。 ・読みの要約の力を生かして、討論の内容を要約する。	

3 実践
 (1) 単元について

単元名 文章の構成を考えながら読もう
 「イースター島にはなぜ森林がないのか」



本単元でつきたい力
 サ 要約
 文章に書かれている内容を短くまとめること。



(2) 実態(つまずき)に対応した支援
学習指導計画の工夫

プレテストで見られた児童のつまずきに対応しながら学習を進められるように学習指導計画を作成
P: PISA型読解力に対応

学習指導計画(全9時間)

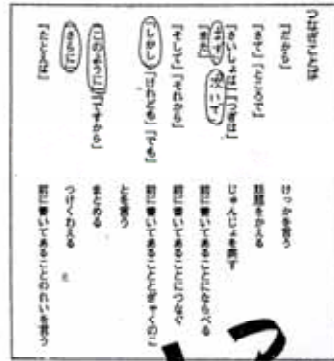
次時	学習活動	評価場面	評価規準		
			十分満足できる	おおむね満足できる	補充を必要とする児童への支援・手だて
一 1	教材文を通読して、初めて知ったことや、もっと知りたいことなど、初発の感想を交流する。	ワークシート	【関】教材文の話題に興味をもち、森林がなくなっただけでなく、森林がなくなることにかかわる感想を書くことができる。	【関】教材文の話題に興味をもち、感想を書くことができる。 題名である森林がないことに関連させて書くように助言する。	島の様子の写真に注目させたり、身近な場所を想起させたりして、イースター島に森林がないことに興味をもちやすいようにする。
二 2	つながりのある段落をまとめて段落のまとまりをつくり、小見出しをつける。	行動観察 ワークシート 発言	【読む】段落の始めの言葉や大事な言葉に注目して段落のまとまりをつくることことができる。 【読む】大事な言葉を使って簡潔に表現している。	【読む】段落の始めの言葉や大事な言葉に注目して、段落のまとまりをつくることことができる。 【読む】大事な言葉を使って要約を考えている。 大事な言葉は残した上で、いらぬ言葉を落とせないと問いかける。 【読む】要約を基に3つのまとまりに分けることことができる。	香川型教材3年3-2を参考にして、つなぎ言葉を手がかりに段落のつながりを考えるように助言する。 繰り返し出てくる言葉や題名と関係がある言葉が大事な言葉であることを確認する。要約をもとに教師と一緒に3つのまとまりに分ける。
3	P 情報の取り出し 解釈 つけたい力 カ				
4	文章全体を3つのまとまりに分ける。 つけたい力 カ				
5	ツリー図をつくって、イースター島の森林破壊の原因をまとめる。 P 解釈 つけたい力 ケ				
6	3つの大きなまとまりに書かれている内容をそれぞれ要約する。 P 解釈 つけたい力 サ	行動観察 ワークシート 発言	【読む】話の内容がよく伝わるように工夫して、まとまりごとに要約することことができる。	【読む】大事な文や言葉をつなぐ方法や中心になる段落を見つけてまとめる方法で、それぞれのまとまりを要約することことができる。 言い換えや重複する表現の削除など、より内容が伝わる表現を考えるように呼びかける。	2・3時の学習を振り返り、中心になる段落を見つけて要約していくのが簡単であることをおさえる。 2～5時の学習でまとめた段落のまとまりの表や文章の構成図を見て、中心となる段落を考えさせる。 中心の段落のいらぬと思う言葉を落とすながら要約するように助言する。
7					
8	筆者の考えに対する自分の考えを書き、交流する。 P 熟考・評価 論述	行動観察 ワークシート 発言	【読む】25～27段落で筆者が主張していることをイースター島におこった出来事と関連させて書くことことができる。 【書く】筆者の主張をふまえて、身近な例を挙げながら自分の考えを書くことことができる。	【読む】25～27段落で筆者が主張していることを自分の言葉で書くことことができる。 【書く】筆者の主張に対する自分の考えやその理由を書くことことができる。 筆者の主張は、具体的にはどういふことが考えられるように助言する。	教材文の言葉を分かりやすい言葉に置き換えながら筆者の主張の意味を説明した上で、自分の言葉でまとめさせる。 筆者の主張をどう思うか問いかけて考えを引き出し、理由も書くように促す。
他の説明文を読む。					
三 9	読んだ説明文を要約する。 友達と要約を読み合い、互いのよさを見つけ、自分の要約を振り返る。	行動観察 ワークシート	【読む】説明文を読み、文章中の大事な文や言葉を工夫して使いながら要約することことができる。	【読む】説明文を読み、文章中の大事な文や言葉を使って要約することことができる。 筆者の表現をつなぎ合わせるだけでなく、表現を工夫している例を紹介する。	大事な文や言葉、中心になる段落を見つけてサイドラインを引くように助言する。 線を引いた部分が適切かどうか考えさせた後、まとめるように促す。

まとまりをつかむための指導

〔香川型教材 3年 3-2を利用〕

段落の始めにあるつなぎ言葉を手がかりに段落のまとまりを考える。
つきたい力 カに対応

つなぎ言葉のはたらきを確認しよう。教材文に使われているつなぎ言葉は、どんなはたらきをしているかな。



段落のまとまりをつかみやすいように表にまとめる。 つきたい力 カ・キに対応

大事な文や言葉をおくことで、限定し、小見出しをやすくする。キに対応

結論		本論		結論	
祖先を敬ぶよりも、子供を大切にしたい人種の再統一を考えた。	森林がなくなり、動物たちがあつた村に、あつた動物たちがあつた。	宗教的・文化的な目的で、森林が壊された。	祖先を敬ぶため、モアイ像を運ぶため	祖先を敬ぶため、モアイ像を運ぶため	祖先を敬ぶため、モアイ像を運ぶため
祖先を敬ぶよりも子供を大切にしたい人種の再統一を考えた。	森林がなくなり、動物たちがあつた村に、あつた動物たちがあつた。	宗教的・文化的な目的で、森林が壊された。	祖先を敬ぶため、モアイ像を運ぶため	祖先を敬ぶため、モアイ像を運ぶため	祖先を敬ぶため、モアイ像を運ぶため
祖先を敬ぶよりも子供を大切にしたい人種の再統一を考えた。	森林がなくなり、動物たちがあつた村に、あつた動物たちがあつた。	宗教的・文化的な目的で、森林が壊された。	祖先を敬ぶため、モアイ像を運ぶため	祖先を敬ぶため、モアイ像を運ぶため	祖先を敬ぶため、モアイ像を運ぶため

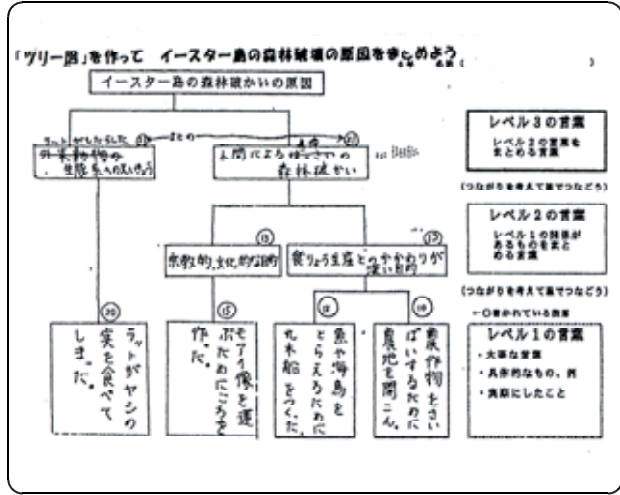
つなぎ言葉を書き出させることで、段落のまとまりをつかみやすくする。カに対応

大事な文や言葉を取り出した状態で文章全体を見渡せるようにすることで、まとまりをつかみやすくする。カに対応

関連を考えてまとまりをつかめるように、段落ごとに大事な文や言葉を書き出させる。カに対応

ツリー図をかくことで、上位概念を意識させ、要約につなぐ。
児童のつまづきをふまえた、まとまりをつかみやすくするための支援

ツリー図をかくてイースター島の森林破壊の原因をとらえる。⇨ ツリー図を要約の際に利用。



要約するときこの言葉を使うとうまくまとめられる。

- レベル3 さらにまとめる言葉
- ↑
- レベル2 まとめる言葉
- ↑
- レベル1 具体例

* 自力でツリー図を完成させるのが難しい児童には、枠をかけたワークシートを渡した。

要約の指導における支援の工夫

ア 課題解決の見通しをもたせる。(一斉指導)

今までの学習から、要約の仕方を考え、学習を進める方向付けとした。

<p>段落のまとまりを要約する 大事な言葉をつないでまとめる 中心になる文をもとにしてまとめる この2つの方法で、文章の内容を短くまとめられることを学んでいる。</p>	<p>3つのまとまりを要約する ・文章に書かれていることを短くまとめるという共通点から、やの方法を本時の学習に生かせるのではないかと課題解決の見通しをもって学習することができる。</p>
---	--

学習の進め方が分からないために活動が止まるということが、なかった。

イ 習熟度に合わせた3つのグループで学習を進める。(習熟度別学習)

(前時までの学習の自己評価をもとに、児童が、グループを自己選択しておく。)

習熟度に合わせた3つのグループをつくり、要約の手がかりとなる視点を入れたワークシートを使って学習した。時間をずらして、各グループへの直接支援を行った。

1 教師による直接支援グループ	2 半自力解決グループ	3 自力解決グループ
教師と一緒に一つ一つのステップを確認しながら要約していく。	ヒントカードをもとに大事な言葉や中心になる段落を見つけて自力で要約する。	大事な言葉や中心になる段落を見つけて、自力で要約する。
【ワークシートに入れる視点】 ・ どちらの方法でするのが簡単か。 ・ このまとまりの中で中心となる段落はどこか。 ・ 中心の段落の中で要約に使う大事な部分はどこか。なくてもよい言葉はどれか。	【ワークシートに入れる視点】 ・ どちらの方法ですか。(理由も) (の方法・赤帽をかぶる) ・ どの段落の大事な言葉を使うのか。 (の方法・白帽をかぶる) ・ 中心の段落の中で要約に使う大事な部分はどこか。なくてもよい言葉はどれか。	グループ内で友達の要約を読み、まとめ方に対する意見を交換する。

時間をずらして直接支援を行うことで、考えが行き詰まっている児童に対して、個別に要約を進める方向を示すことができた。

要約という新たな学習の手順をワークシートで確認しながら、習熟度に応じて自力で解決に向かうことができた。迷いながらも考え、全員が自分なりに要約することができた。

1 教師による直接支援グループ児童の要約例

どのグループの児童も全員が、の方法を選んだ。

一回目

三万年もの間自然に保たれてきたヤシ類の森林は、人間による直接の森林破壊と、人間が持ちこんだ外来動物であるラットがもたらした生態系へのえいきょうによってほぼ完ぺきに破かいされてしまった。

二回目

イースター島の森林は、人間による直接の森林破かいと、人間が持ちこんだ外来動物であるラットがもたらした生態系へのえいきょうによってほぼ完ぺきに破かいされてしまった。

三回目

イースター島の森林は、人間による直接の森林破かいと、ラットがもたらした生態系へのえいきょうによってほぼ完ぺきに破かいされてしまった。

森林破壊の原因は必要だね。ツリ図を見て、どの言葉を使うか考えよう。



なくてよい言葉は線で消そう。

中心段落を抜き出し、この段落に集中して考えさせる。

このようにして、三万年もの間自然に保たれてきたヤシ類の森林は、ばつさいという人間による直接の森林破かいと、人間が持ちこんだ外来動物であるラットがもたらした生態系へのえいきょうによって、ポリネシア人たちの上陸後、わずか千二百年ほどで、ほぼ完ぺきに破かいされてしまったのである。

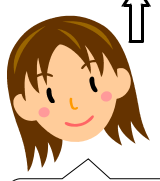
2 半自力解決グループ児童の要約例



文は、主語から書き始めると、すっきりと分かりやすくなるよ。つなぎ方を考えよう。

書いたなら、読み返してみよう。意味が通っているかな。

①大きな言葉をつなぐ方法（説明）
②中心になる言葉をまとめる方法（冒頭）



破壊されたのは、イースター島の森林だ。

主語が入っていないよ。「何が」破壊されたの。



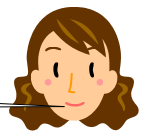
森林破壊の原因にかかわる言葉を選んでいるね。

3 自力解決グループ児童の要約例

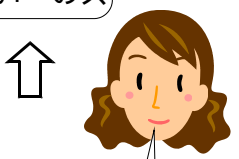
「ヤシ類の森林」の破壊の原因を述べようとしているの。別の段落にある言葉で言いかえる方法もあるよ。



21段落には、「ほぼ完ぺきに破かいされた」と書かれているよ。適切な表現は、どちらかな。



①大きな言葉をつなぐ方法（説明）
②中心になる言葉をまとめる方法（冒頭）



「何の森林」の破壊の原因を述べようとしているの。別の段落にある言葉で言いかえる方法もあるよ。



三万年もの間自然に保たれてきたヤシ類の森林は・・・？ 長いなあ。「ヤシ類の森林は」でいいかな。

21段落をもとにするなら、主語を何にするといいかな。



(3) P I S A 型読解力につながる指導

「熟考・評価」「論述」・・・筆者の訴えに対する自分の考えを書く。

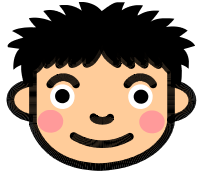
ぼくの子孫のことを考えて行動するというのは考えている人もいます。けど、理科で人間は、どんな石油を使っても、石油と同じように限りがある石油を使っても、石油は、木と同じように使う時間も、石油は、木と同じように使う時間はないと思いません。でも、この話を読んで、よく考えて使わないといけないと思いません。でも、この話を読んで、よく考えて使わないといけないと思いません。でも、この話を読んで、よく考えて使わないといけないと思いません。

筆者がうたったたいこと
島のようにならなたいことは、イースター
よりも、子孫が幸せなくらしを送れる
ように考え、自然を正しく利用して生
きていかなければいけないよ。



ぼくは、筆者の意見に賛成です。
自然を利用するのはかまわないけど、使いすぎたら、子孫は
不幸になるので、木を切りつくすみたく、使いために切
ておいたらいけないと思います。あとの分は、子孫のために残し

筆者がうたったたいこと
祖先を敬うよりも、子孫の幸せやく
らしをよく考えて、自然を正しく利用
しなければならぬということ。


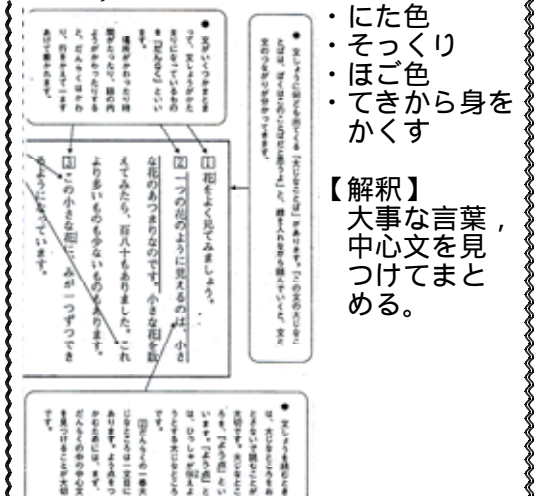
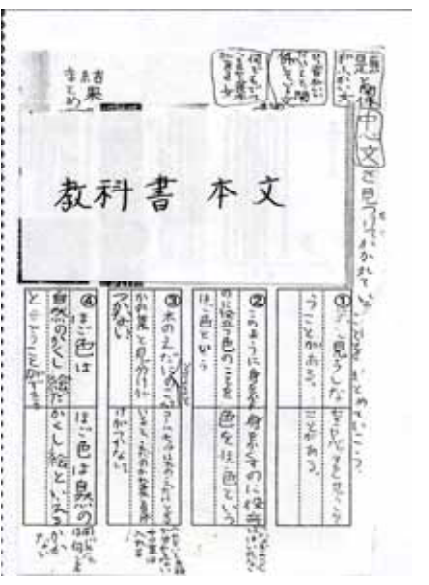
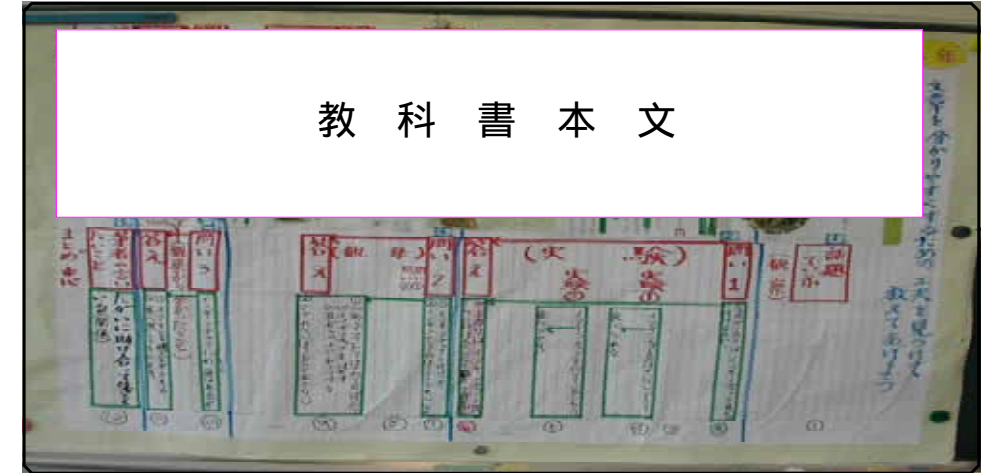



(4) 児童の変容と考察 (児童数：21名)

調査項目	プレテストでの正答率	本単元の学習後の正答率
指示された例の部分を見つける。	10名(48%)	16名(76%)
段落に小見出しをつける。	6名(29%)	8名(38%)
文章全体を3つのまとまりに分ける。	9名(43%)	12名(57%)
筆者が、一番言いたいことを書く。	8名(38%)	20名(95%)

《考察》
段落に小見出しをつけることについては、正答率としては伸びが感じられない結果であった。しかし、個別に見ると、プレテストでは空欄だった6名が、大事な言葉を含む自分なりのまとめを書いてきた。本単元の学習により書かれていることを短くまとめるコツをつかんだのではないかと考えられる。繰り返し指導することで、力を定着させていきたい。
指示された例の部分を見つけられた児童の割合が約30%増えた。段落のまとまりがつかめるようになってきたと考えられる。
学習後の調査では、まとめの段落の中心となる文から必要な部分だけを使って、筆者が一番言いたいことを書くことができていた。要約するとき、必要でない言葉は削るように指導した成果だと考える。
要約するための大事な言葉を見つける力は、まだ定着していない。大事な言葉を見つける視点(題と関係している、繰り返し使われている、要旨と関係がある)をもって文章を読み、要約する経験を多く積ませたい。
書かれている内容を短くまとめる力の定着も、十分とはいえない。中心文を見つけてまとめる方法、大事な言葉をつないでまとめる方法があることを知った上で、有効な方法を見極めてまとめられるように指導していく必要がある。
その学年でつけるべき力を確実につけることが、P I S A 型読解力を身につけることにつながる何よりの支援となる。各学年でつけたい力の系統性を意識し、前学年までに学習したことを意図的に押さえながらその学年の学習を進めていくことが、確かな読みの力につながる。

4 各学年における要約に向けてつまずかせないための支援

学年	教材	つまずかせないための支援
2	<p>つけたい力と P I S A 型読解力の関連</p> <p>時間の経過から、視点(根、花、実)をはっきりさせ、説明の順序に気を付けて正しく情報を読み取ることができる。 【情報の取り出し】</p> <p>たんぼば</p>	<p>【情報の取り出し】 順序を表す言葉に着目して挿し絵と対応させて</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> わた毛が土におちると () たねがめを出します。 </div> <div style="font-size: 2em;">←</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> わた毛は風に () へ行きます。 </div> <div style="font-size: 2em;">←</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 花が () とみが () いきます。 </div> </div> 
3	<p>大きな言葉を見つけることができる。大きな言葉に着目して(繰り返し出てくることば、題名とつながりがあることば)段落ごとにまとめることができる。 【情報の取り出し】</p> <p>段落ごとに短くまとめる際、大きな言葉を見つけてつなぐ方法と、中心文を見つけて理解することができる。 【解釈】</p> <p>自然のかくし絵</p>	<p>【情報の取り出し】 大きな言葉は何かおさえる。(香川型教材 3年2 - 1)</p> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>大事な言葉 (本単元)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見うしなう ・見分けにくい ・身をかくす ・にた色 ・そっくり ・ほご色 ・てきから身をかくす <p>【解釈】 大事な言葉、中心文を見つけてまとめる。</p> </div> <div style="flex: 2;">  </div> </div> 
4	<p>述べ方(本論の「問い・答え」に着目)に気を付けて文章をいくつかのまとまりでまとめることができる。 【情報の取り出し】 【解釈】</p> <p>ヤドカリとイソギンチャク</p> <p>文章の中に「実験・観察」の段落を入れることで、読み手を説得させる文章になることを理解することができる。 【熟考・評価】</p>	<p>【情報の取り出し】【解釈】【熟考・評価】 「問い・答え」の対応のよさでまとまりを作ることをとらえさせる。(実験・結果を取り上げるよさにもふれられる。)</p> 
5	<p>文章の仕組みを考え、まとめることができる。要旨(筆者の言いたいこと)をとらえすることができる。 【情報の取り出し】 【解釈】 【熟考・評価】</p> <p>動物の体</p>	<p>【情報の取り出し】【解釈】 香川型教材によるツリー図の作り方を学習</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> 体内 </div> <div style="text-align: center;"> 外から見える形 </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <p>【熟考・評価】 ツリー図を使って文章構成をおさえる。(まとまり意識がある児童) 上位概念からまとめる</p> <p>(まとまりがつかみにくい児童) 下位概念からまとめる</p>

5 おわりに

成果

系統表を作ることにより、つきたい力やPISA型読解力がどの学年で身につけられるかがはっきりした。この力を確実に身につけていくことが、今後の生活の場で活用できる力となっていくであろう。

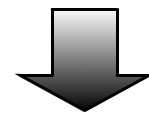
つきたい力を洗い出し、系統を大切に指導すると、指導事項が精選される。そうすることで、効率的な指導ができ、生活に生かすような言語活動を組み込む時間が生み出せた。

課題

それぞれの学年でつきたい力を確実に身につけさせる授業をしていかないと、学年が上がるにつれてつまずきへの対応への時間が必要になる。その結果、指導時数が増える。教師にはつきたい力が意識でき始めたが、子どもたちが身につけたい力を十分に自覚できていない。



新たな課題



生み出せた時間で、子どもたちの実態をしっかりと把握することが大切である。そのためにも、プレテストや力が身についたかどうかの評価をするテストなどの開発が早急に必要である。

国語科では身についた力を復習したりその力を生かして活動する時間が他の教科に比べて少ないと思われる。そこで、単元計画の際には、既習の教材などを使い、今までの学習の復習をし、次にその単元で新しく学ぶ内容を指導するような計画を立てたり、身に付いた力を使って活動する時間を設定したりする必要がある。

各学年で確実に力をつけていくとともに、つまずきに対応した指導を時間内に行うための工夫(単元計画、ワークシート等)を研究していきたい。より主体的な学習にするために、評価を教師だけのものではなく、子どもたちと共有できるような評価項目や評価方法を考えていかなければならない。そうすることが、確実な子どもたちの力となるはずである。